

## 子どもと地域

この章では、三重県が実施した「子ども条例に基づく調査」の結果から、地域社会の状況や大人から子どもへのかかわり方、受け止める子どもの気持ちの双方向からみることによって、子どもを育む地域社会について考えます。

県民のほぼ 95%が、子どもの育ちを見守り応援したいと考えています。また、安全な生活環境、世代を超えた交流、住民同士の交流がある地域が子どもの育ちに必要と考えられています。

子どもに接するときの心がけでは、積極的な声かけ、話をよく聞くことに次いで、大人どうしが支え合う姿を見せるという回答が多くなっています。

また、地域では、子どもとあいさつを交わしたり、子どもをほめたり注意したりして、多くの大人が子どもとかかわっています。

一方、地域でのこうしたかかわりについて、大人に対する子どもの意識との相関をみると、普段から大人の愛情や理解、はげまし、傾聴を感じていない子どもは、地域の大人とのかかわりにも無関心であるという傾向がみられます。

大人からの愛情や理解などを感じている子どもは、将来も自分が育った地域に住みたいという割合が大きくなっています。

## 1 節 地域の応援

### (1) 子どもの育ちへの応援

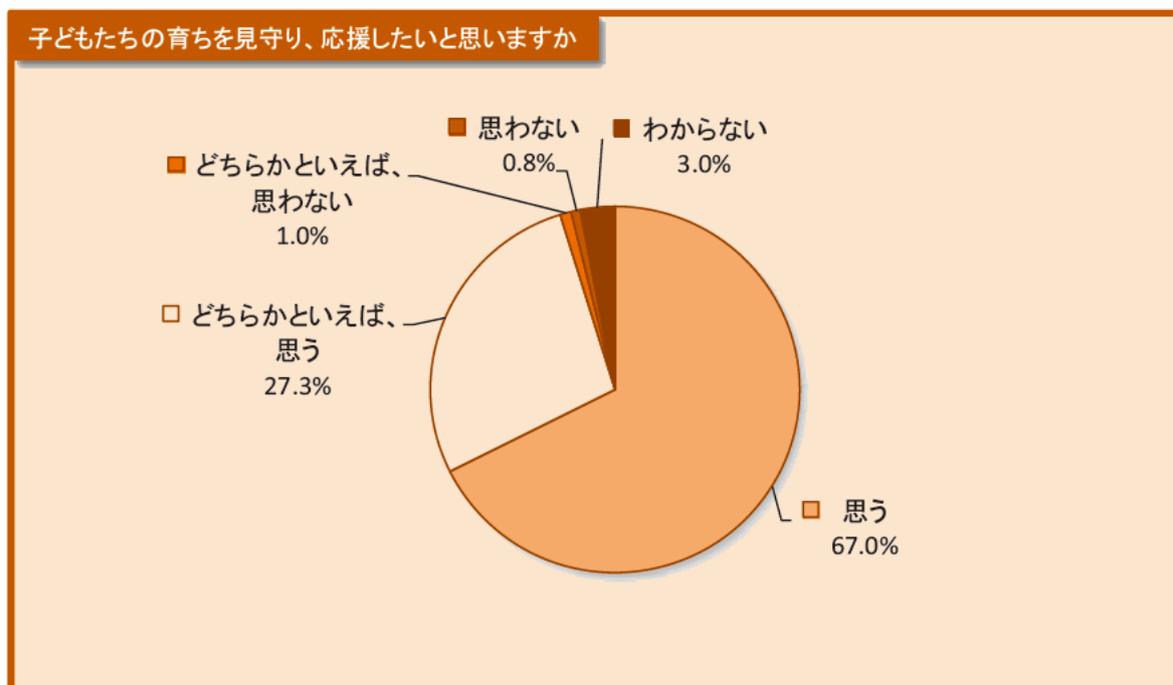
#### 大半の県民が子どもの育ちを応援したい と思っている

「条例・県民調査」で、約95%の人が「子どもたちの育ちを見守り、応援したいと思

う・どちらかといえば思う」と答えています。

県民の多くが子どもの育ちに関心を持ち、応援したいと思っていることがわかります。

図4-1 子どもの育ちへの見守りと応援



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

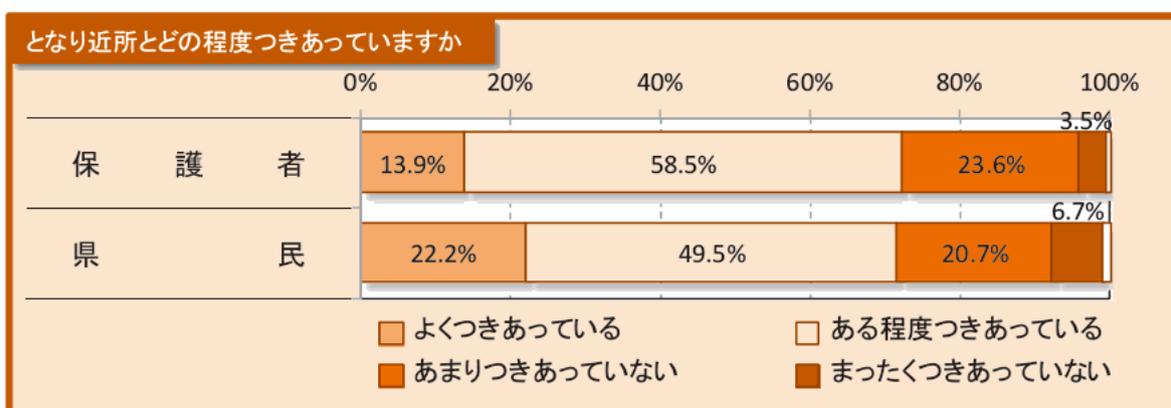
## (2) 近所のつきあい

### 近所でのつきあいが深い人は、子どもへの応援の気持ち強い

となり近所とのつきあいについては、「保護者」、「県民」とも、70%以上が「よくつきあっている・ある程度つきあっている」と答えています。

また、「となり近所とのつきあいの程度」と、「子どもたちを見守り、応援する意識」との相関をみると、となり近所とのつきあいが深いほど、「子どもを応援したい」という人が多くなっています。

図4-2 地域でのつきあいの程度についての保護者と県民の比較



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査／県民調査」

図4-3 地域でのつきあいと「子どもの育ちへの見守りと応援」との相関（県民）

	子どもたちの育ちを見守り、応援したいと思いますか					
		思う	どちらかといえば、思う	どちらかといえば、思わない	思わない	わからない
となり近所との程度つきあっていますか 「よくつきあっている」+「ある程度つきあっている」 [71.7%]		69.3%	26.8%	0.6%	0.6%	1.6%
「あまりつきあっていない」+「まったくつきあっていない」 [27.4%]		60.5%	29.3%	1.9%	1.3%	6.8%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

### (3) 近所の人と子どもとの関係

#### 子どもとあいさつをしている県民の、子どもを応援したいという気持ちは強い

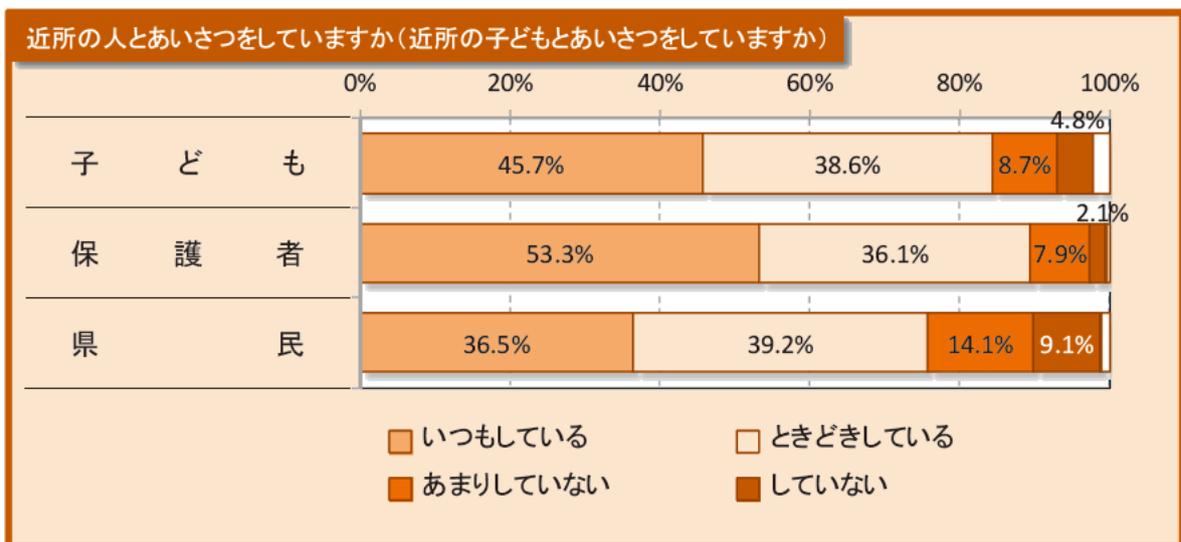
「近所の人といつもあいさつしている・ときどきしている」子どもは、80%を超えています。

保護者で「近所の子どもにいつもあいさつしている・ときどきあいさつしている」人が約90%と高くなっていますが、県民では約

75%と、若干少なくなっています。

また、「近所の子どもへのあいさつ」と「子どもたちを見守り、応援する意識」との相関をみると、子どもによくあいさつをする人ほど、「子どもを応援したい」という回答が多くなっています。

図4-4 近所の人とのあいさつについての子どもと保護者と県民の比較



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査／保護者調査／県民調査」

図4-5 近所の子どもとのあいさつと「子どもの育ちへの見守りと応援」との相関（県民）

		子どもたちの育ちを見守り、応援したいと思いますか				
		思う	どちらかといえば、思う	どちらかといえば、思わない	思わない	わからない
近所の子どもとあいさつをしていますか	「いつもしている」+「ときどきしている」 [75.7%]	70.0%	26.8%	0.5%	0.2%	1.7%
	「あまりしていない」+「していない」 [23.2%]	57.8%	30.0%	2.7%	2.7%	6.8%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

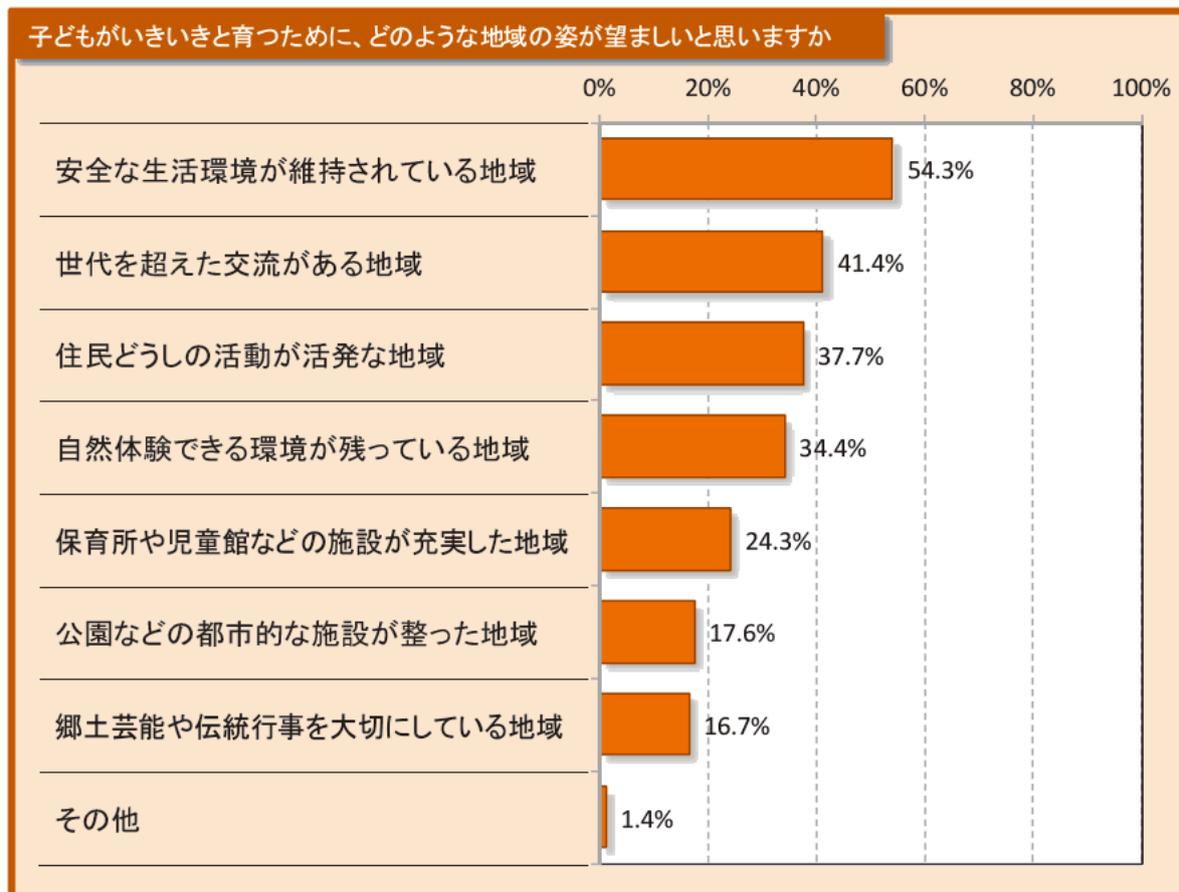
#### (4) 子どもが育つ望ましい地域の姿

子どもの育ちには、「安全な生活環境」、  
「世代間交流」が必要と思っている

「子どもがいきいきと育つために、どのような地域の姿が望ましいか」について、最も多かった答えは、「安全な生活環境が維持さ

れている地域」で50%以上に上っています。次いで、「世代を超えた交流がある」、「住民どうしの活動が活発である」と続きます。

図4-6 子どもが育つ望ましい地域の姿（複数回答・3つまで）



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

## (5) 子どもに接する時の心がけ

### 子どもへの積極的な声かけ、傾聴が心がけられている

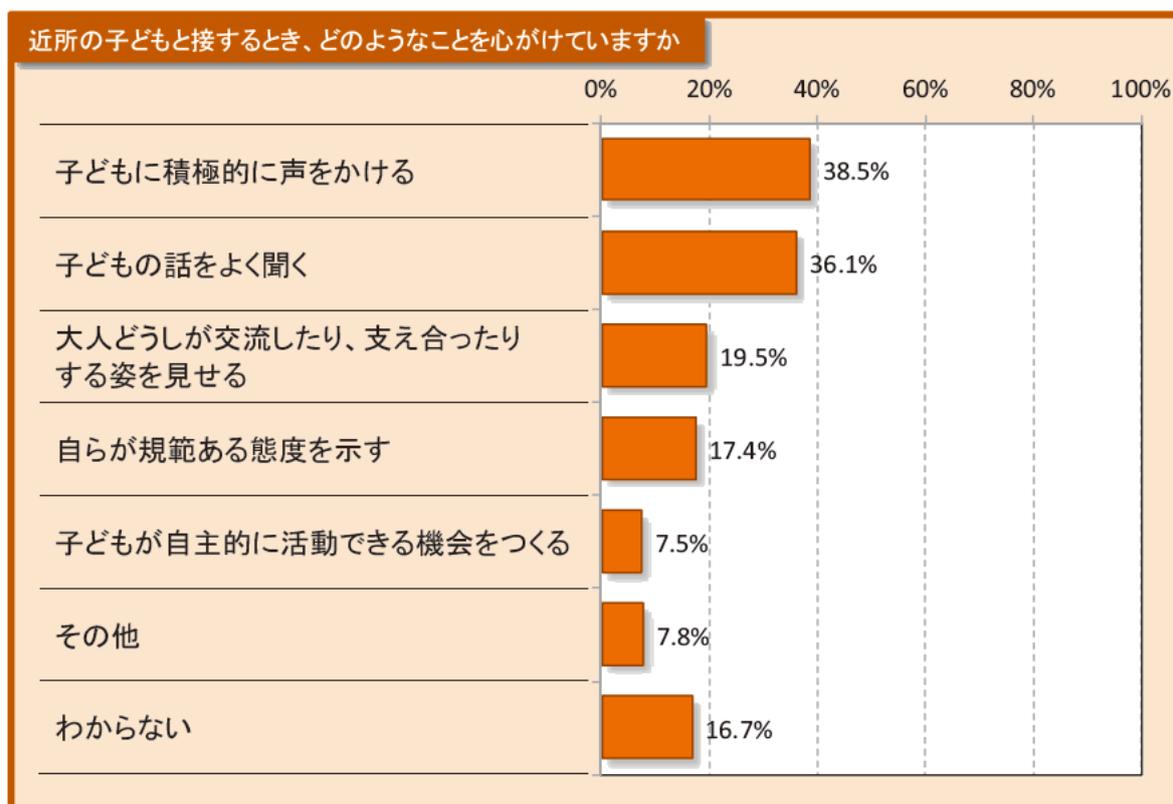
「子どもと接する際の心がけ」について、「子どもに積極的に声をかける」、「子どもの話をよく聞く」の2項目がそれぞれ40%近くになっています。

「大人どうしが交流したり、支え合ったり

する姿を見せる」など、地域そのもののつながりや交流を意識した回答も20%近くに上っています。

一方、「子どもが自主的に活動できる機会をつくる」については、約8%と少なくなっています。

図4-7 子どもと接するときの心がけ（複数回答・いくつでも）



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

## (6) 地域の行事への大人の参加

### 保護者は子どもの活動とのかかわりで地域行事に参加することが多い

保護者の地域行事への参加については、「地域の祭り」が最も多く70%以上に上り、「公園や道路などのそうじ、避難訓練など」が約60%、「地域の運動会やクリスマス会などの行事」が約50%で続いています。

参加の理由としては、小学生の保護者では「子どもが参加したいから」、「子どもに体験させたいから」など、子どもの活動との関連が強くなっています。中学生の保護者でも傾向としては似ていますが、割合は全体的に小さくなっています。

図4-8 地域の行事への参加状況と参加理由（保護者）（複数回答・いくつでも）

		小学5年生 の保護者	中学2年生 の保護者	保護者全体
住んでいる地域の行事などに 参加したことがありますか	地域の祭り	75.2%	73.3%	74.2%
	地域の運動会、クリスマス会などの行事	50.5%	49.4%	49.9%
	公園や道路などのそうじ、避難訓練など	57.2%	62.0%	59.4%
	児童館、公民館などの講座や教室	19.0%	17.7%	18.3%
	地域の伝統芸能などの保存活動	7.0%	7.4%	7.1%
	その他	1.1%	1.5%	1.3%
	参加したことがない	7.3%	6.3%	6.8%
	どんな行事があるのか知らない	1.7%	1.9%	1.8%
		小学5年生 の保護者	中学2年生 の保護者	保護者全体
参加した理由は何ですか	子どもが参加したいから	56.2%	41.3%	49.1%
	自治会活動などでやむを得ないから	37.9%	48.9%	43.1%
	子どもに体験させたいから	48.3%	34.1%	41.6%
	地域の人々と交流したいから	33.5%	35.3%	34.4%
	地域の伝統・文化だから	22.2%	27.4%	24.6%
	家族で参加できるから	19.1%	15.5%	17.4%
	その他	1.8%	3.0%	2.4%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

**町内会・自治会の活動には半数が参加しているが、特に参加しない人も多い**

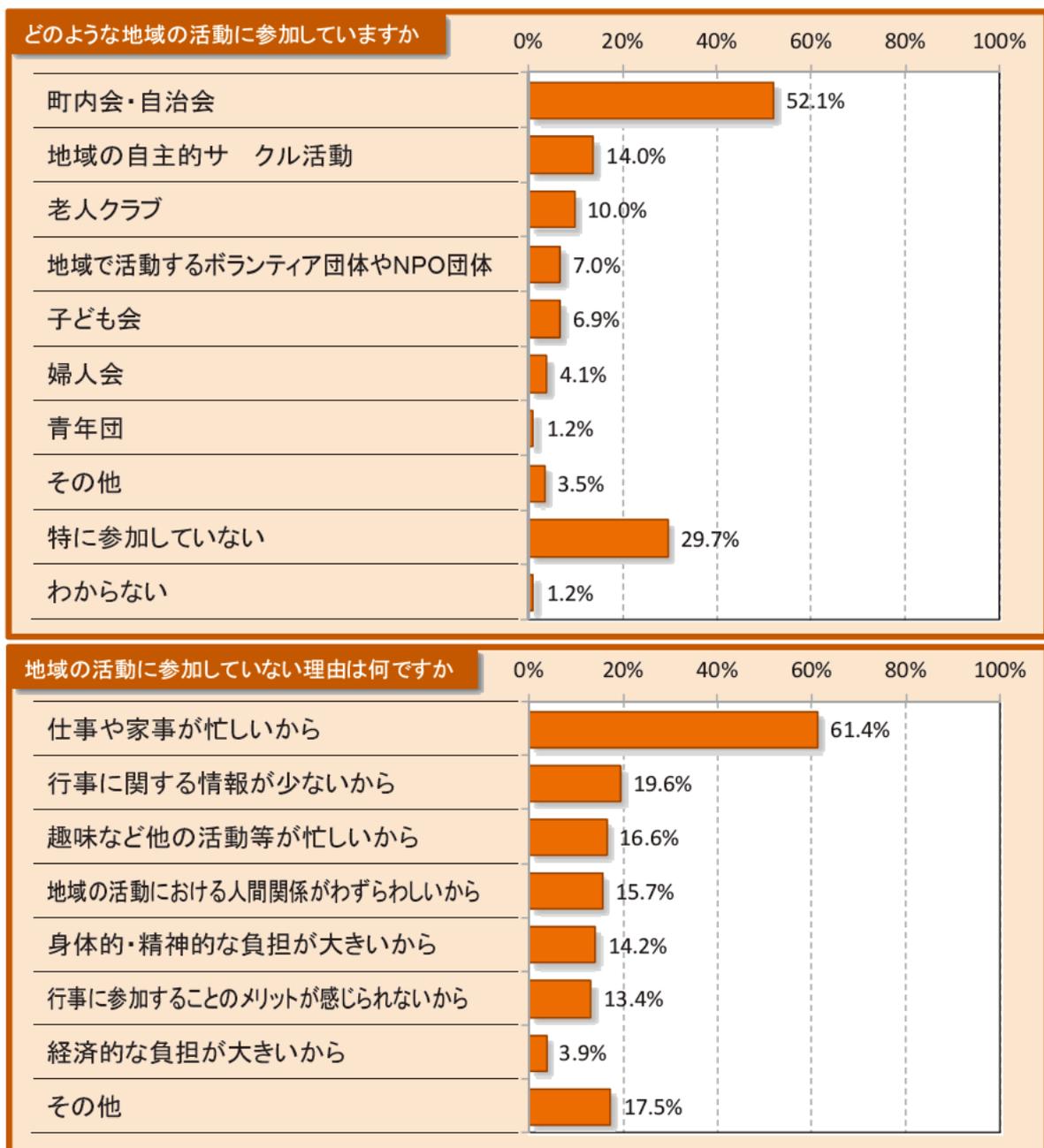
県民の地域活動への参加としては、「町内会・自治会」が最も多く 50%を超えています。また、それ以外の活動はあまり多くありません。

一方で、「特に参加していない」も約 30%

に上っています。

特に参加していない人の「参加していない理由」では、「仕事や家事」、「趣味などの活動」が忙しいことが大きいですが、人間関係のわずらわしさや身体的・精神的な負担感などもあります。また、行事に関する情報の不足も約 20%に上っています。

図 4-9 地域の活動への参加状況と参加しない理由（県民）（複数回答・いくつでも）



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・県民調査」

## (7) 地域の行事と子ども

### 学年が上がるにつれて行事への参加が少なくなる

子どもの地域行事への参加については、「地域の祭り」が最も多く約 75%となっています。以下、「地域の運動会、クリスマス会などの行事」が 50%弱、「公園や道路などのそうじ、避難訓練など」が 30%弱と続いています。

概して、学年が上がるにつれて参加割合が小さくなっています。

「参加したことがない」や「どんな行事があるのか知らない」は 6%前後であり、こちらは逆に学年が上がるにつれて回答が多くなります。

図 4-10 地域の行事への参加（複数回答・いくつでも）

		小学 5年生	中学 2年生	高校 2年生	子ども 全体
住んでいる地域の行事などに 参加したことがありますか	地域の祭り	73.8%	79.2%	72.4%	75.1%
	地域の運動会、クリスマス会などの行事	57.6%	47.5%	36.1%	47.4%
	公園や道路などのそうじ、避難訓練など	33.7%	28.7%	23.7%	28.8%
	児童館、公民館などの講座や教室	17.5%	9.6%	7.8%	11.8%
	地域の伝統芸能などの保存活動	7.2%	4.7%	4.8%	5.6%
	その他	4.5%	1.4%	2.1%	2.7%
	参加したことがない	4.8%	6.1%	8.7%	6.5%
	どんな行事があるのか知らない	3.3%	5.5%	8.6%	5.7%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

## (8) 地域で取り組みたいこと

異年齢間の遊びや活動へのニーズが高いが、「特にしたいことはない」子どもも多い

子どもが「住んでいる地域で、取り組んでみたいこと」は、「違う年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりすること」が約20%と最も多く、これは、保護者や県民が「子どもが取り組めるとよいと思うこと」でも最も

多くなっています。

子どもと大人を比較すると、大人は子どもの参加、活動により期待をしているものの、子どもが取り組みたいことは少なく、子どもでは「特にしたいことはない」が約35%を占めています。

図4-11 地域で取り組んでみたいことについての子どもと保護者と県民の比較

	子ども	保護者	県民	
住んでいる地域で、どんなことに取り組んでみたいですか	違う年齢の子どもと一緒に遊んだり、活動したりする	20.2%	41.5%	33.2%
	地域のスポーツクラブやサークルで活動する	19.6%	31.2%	29.1%
	農業、漁業、伝統工芸など、地域の産業を体験する	14.7%	28.8%	24.1%
	いろいろな国の人と交流する	12.7%	23.6%	9.7%
	地域の歴史や文化について勉強する	12.4%	28.3%	22.9%
	お年寄りや昔の遊びなどで交流する	11.5%	23.9%	21.5%
	町の美化活動をする	9.7%	30.2%	32.4%
	地域の行事を計画する	9.7%	14.0%	29.5%
	防災活動など地域の安全を守るための活動をする	8.3%	30.4%	25.6%
	地域の大人と意見交換などをする	4.3%	13.8%	15.3%
	その他	1.2%	1.0%	2.0%
	特にしたいことはない	35.8%	10.1%	11.2%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査／保護者調査／県民調査」

## 2節 子どもと地域の大人のかかわり

### (1) 子どもへの大人のかかわり ～ほめられた経験・ほめた経験～

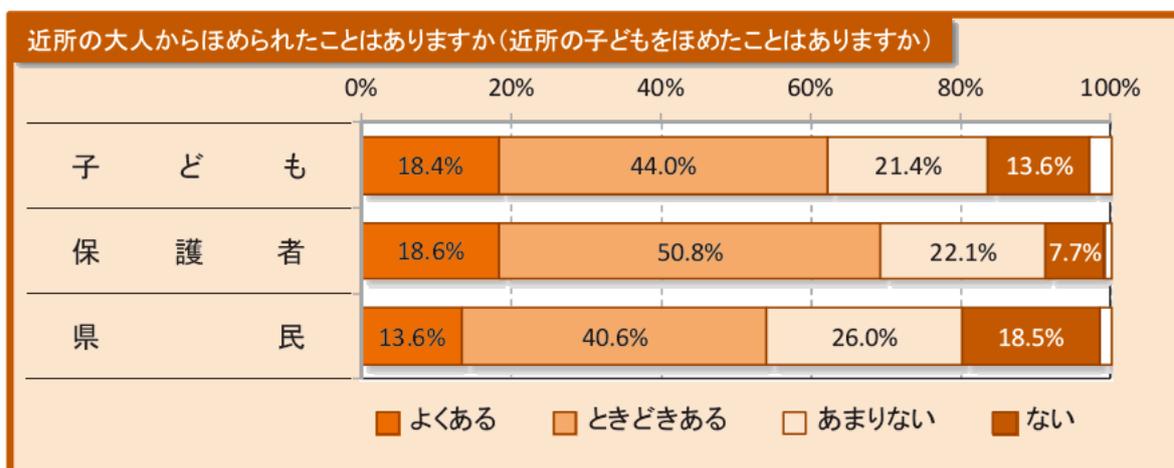
#### ほめられた経験・ほめた経験はいずれも50%以上

「近所の大人からほめられたことがよくある・ときどきある」子どもは、約60%となっています。一方で、「近所の子どもをほめたことがよくある・ときどきある」という大人は、保護者で約70%、県民では約50%

となっています。

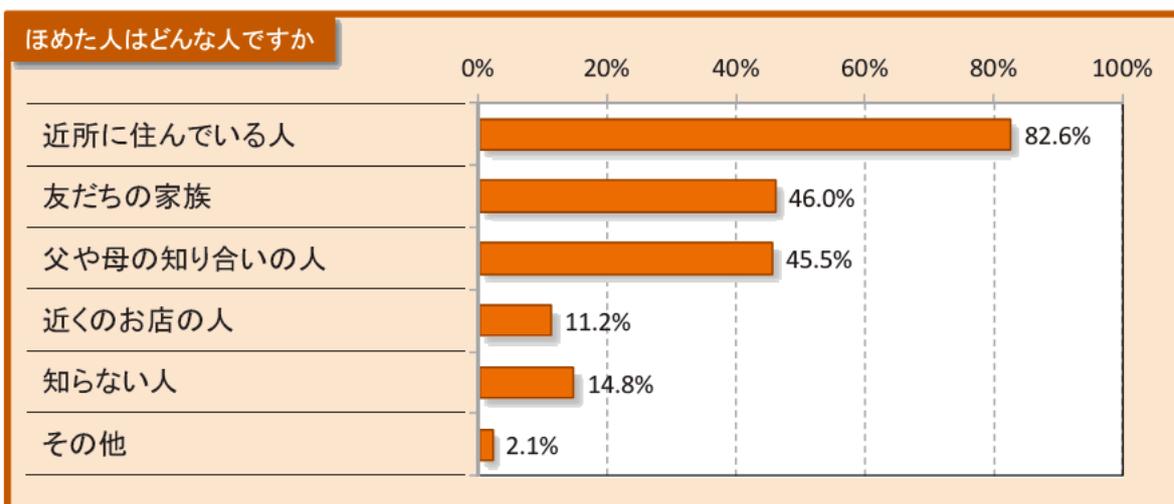
「ほめた人」は、「近所に住んでいる人」が約80%で最も多く、次いで「友だちの家族」や「父や母の知り合いの人」など、なんらかのかかわりのある人が多くなっています。

図4-12 ほめられた経験・ほめた経験についての子どもと保護者と県民の比較



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査／保護者調査／県民調査」

図4-13 ほめた人



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

### 大人の愛情や理解が受けられている子どもほどほめられることをうれしく感じる

子どもが「ほめられたときにどう思ったか」と、大人とのかかわりを示す「大切にされていると感じるか」、「大人は自分のことをわかってくれていると思うか」、「大人にはげまされて元気になれたことがあるか」、「大人は意見を聞いてくれるか」、「近所の人とあいさつするか」という5つの項目との相関をみます。

各項目とも、肯定的な回答をした子どものほうが、否定的な回答をした子どもよりも「ほめられてうれしかった」という割合が大きい結果になっています。

逆に各項目で否定的な回答をした子どもは、「ほめられて何とも思わなかった」という回答が多く出ています。

図4-14 ほめられたときの思い

		小学 5年生	中学 2年生	高校 2年生	子ども 全体
ほめられたとき、どう思いましたか	ほめられて、うれしかった	89.1%	85.7%	86.2%	87.2%
	ほめられて、うれしくなかった	1.1%	1.6%	1.5%	1.4%
	ほめられて、何とも思わなかった	9.6%	13.1%	11.3%	11.2%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図4-15 大人のかかわりと「ほめられたときの思い」との相関

		ほめられたとき、どう思いましたか		
		ほめられて、うれしかった	ほめられて、うれしくなかった	ほめられて、何とも思わなかった
普段、生活しているなかで、「大切にされている」と感じますか	「感じる」+「どちらかといえば、感じる」 [74.8%]	90.4%	1.2%	8.5%
	「感じない」+「どちらかといえば、感じない」 [21.3%]	71.7%	2.5%	25.3%
		ほめられたとき、どう思いましたか		
		ほめられて、うれしかった	ほめられて、うれしくなかった	ほめられて、何とも思わなかった
大人は、「自分のことをわかってくれている」と思いますか	「思う」+「どちらかといえば、思う」 [73.0%]	90.1%	1.2%	8.5%
	「思わない」+「どちらかといえば、思わない」 [24.3%]	75.6%	2.5%	22.7%
		ほめられたとき、どう思いましたか		
		ほめられて、うれしかった	ほめられて、うれしくなかった	ほめられて、何とも思わなかった
大人の人にはげまされて元気になったことがありますか	ある [57.4%]	91.2%	1.2%	7.5%
	ない [38.2%]	79.9%	1.9%	18.4%
		ほめられたとき、どう思いましたか		
		ほめられて、うれしかった	ほめられて、うれしくなかった	ほめられて、何とも思わなかった
自分にかかわることを決めるとき、大人は、あなたの意見を聞いてくれますか	「いつも聞いてくれる」+「ときどき聞いてくれる」 [87.4%]	88.7%	1.2%	10.0%
	「あまり聞いてくれない」+「まったく聞いてくれない」 [10.0%]	72.9%	3.2%	25.4%
		ほめられたとき、どう思いましたか		
		ほめられて、うれしかった	ほめられて、うれしくなかった	ほめられて、何とも思わなかった
近所の人とあいさつをしていますか	「いつもしている」+「ときどきしている」 [84.3%]	87.9%	1.3%	10.6%
	「あまりしていない」+「していない」 [13.5%]	71.7%	2.4%	24.1%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

## (2) 子どもへの大人のかかわり ～注意された経験・注意した経験～

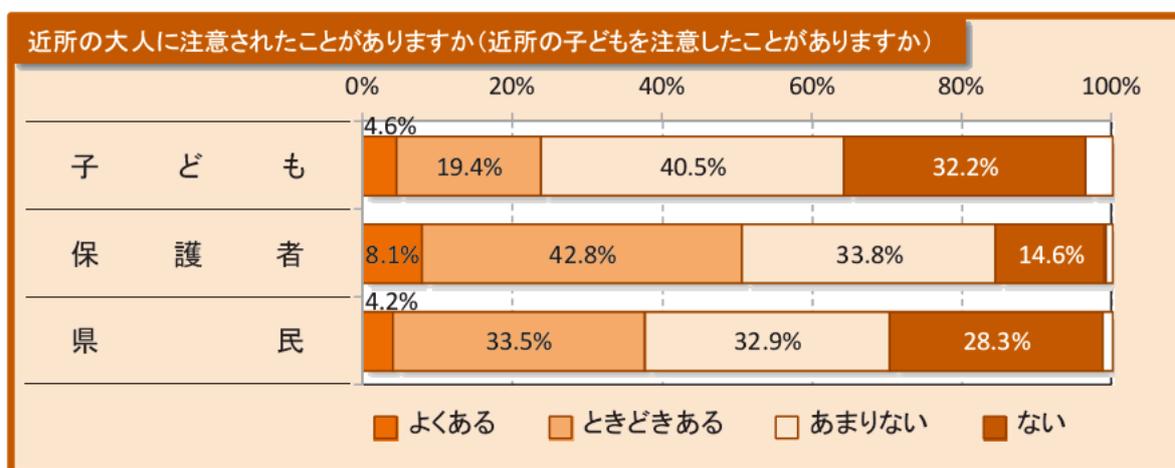
大人は注意した経験が多い、子どもは注意された経験が「ない・あまりない」と思っている

「近所の大人から注意されたことがよくある・ときどきある」子どもは、20%強となっていますが、一方で、「近所の子どもを注意したことがある・ときどきある」という大人は、保護者が約 50%、県民で約 40%となっており、保護者と県民では、保護者のほう

が子どもを注意した経験があると答えています。

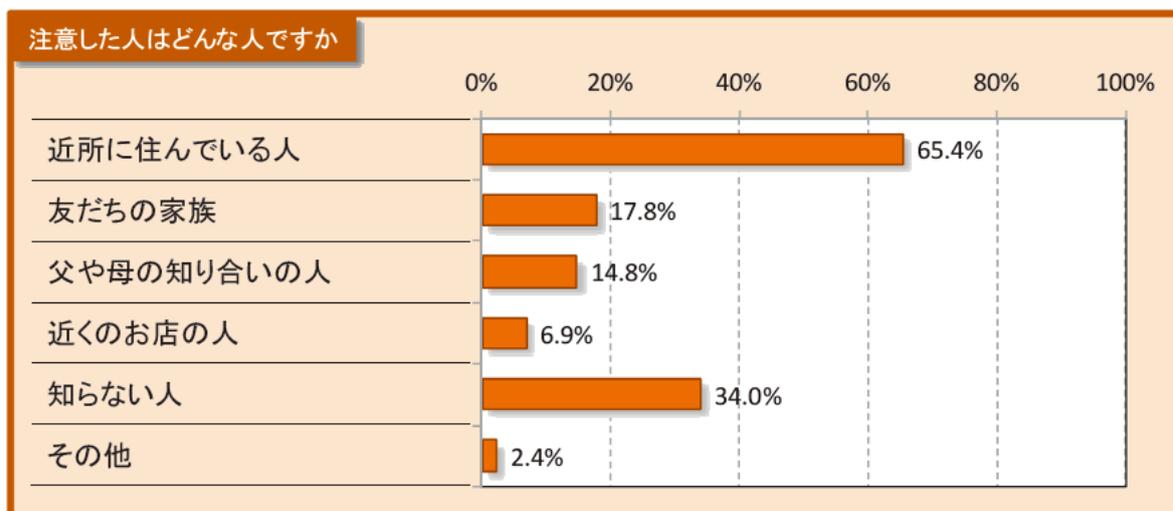
「注意した人」は、「近所に住んでいる人」が約 60%で最も多いですが、「知らない人」が 30%以上となっている一方、「ほめた人」で多かった「友だちの家族」や「父や母の知り合いの人」は 20%未満と少なくなっています。

図 4-16 注意された経験・注意した経験についての子どもと保護者と県民の比較



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査／保護者調査／県民調査」

図 4-17 注意した人



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

**大人の愛情や理解が受けられている実感の薄い子どもでは「何とも思わない」が多い**

子どもが「注意されたときにどう思ったか」と、大人とのかかわりを示す「大切にされていると感じるか」、「大人は自分のことをわかってくれていると思うか」、「大人にはげまされて元気になれたことがあるか」、「大人は意見を聞いてくれるか」、「近所の人とあいさつするか」という5つの項目との相関をみます。

すべての子どもで、「注意されてうれしくなかった」という回答が最も多く、約半数を占めていますが、各項目で否定的な回答をした子どもは、肯定的な回答をした子どもと比べて「うれしかった」、「うれしくなかった」の割合が小さく、「注意されて何とも思わなかった」という回答の割合が大きくなっています。

図4-18 注意されたときの思い

		小学 5年生	中学 2年生	高校 2年生	子ども 全体
注意されたとき、どう思いましたか	注意されて、うれしかった	18.0%	11.0%	18.2%	15.8%
	注意されて、うれしくなかった	54.4%	52.7%	45.1%	50.9%
	注意されて、何とも思わなかった	25.9%	38.9%	34.2%	32.7%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

図 4-19 大人のかかわりと「注意されたときにどう思ったか」との相関

		注意されたとき、どう思いましたか		
		注意されて、うれしかった	注意されて、うれしくなかった	注意されて、何とも思わなかった
普段、生活しているなかで、「大切にされている」と感じますか	「感じる」+「どちらかといえば、感じる」 [74.8%]	17.3%	53.1%	29.0%
	「感じない」+「どちらかといえば、感じない」 [21.3%]	11.5%	44.1%	45.5%
		注意されたとき、どう思いましたか		
		注意されて、うれしかった	注意されて、うれしくなかった	注意されて、何とも思わなかった
大人は、「自分のことをわかってくれている」と思いますか	「思う」+「どちらかといえば、思う」 [73.0%]	16.4%	53.6%	29.0%
	「思わない」+「どちらかといえば、思わない」 [24.3%]	14.1%	43.9%	43.7%
		注意されたとき、どう思いましたか		
		注意されて、うれしかった	注意されて、うれしくなかった	注意されて、何とも思わなかった
大人の人にはげまされて元気になったことがありますか	ある [57.4%]	20.2%	51.2%	28.1%
	ない [38.2%]	9.0%	50.9%	40.0%
		注意されたとき、どう思いましたか		
		注意されて、うれしかった	注意されて、うれしくなかった	注意されて、何とも思わなかった
自分にかかわることを決めるとき、大人は、あなたの意見を聞いてくれますか	「いつも聞いてくれる」+「ときどき聞いてくれる」 [87.4%]	16.6%	51.7%	31.4%
	「あまり聞いてくれない」+「まったく聞いてくれない」 [10.0%]	9.8%	46.3%	45.1%
		注意されたとき、どう思いましたか		
		注意されて、うれしかった	注意されて、うれしくなかった	注意されて、何とも思わなかった
近所の人とあいさつをしていますか	「いつもしている」+「ときどきしている」 [84.3%]	16.7%	51.9%	31.4%
	「あまりしていない」+「していない」 [13.5%]	8.5%	44.1%	42.9%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」



図4-21 大人のかかわりと「将来、育った地域で住みたいか」との相関

		将来、自分が育った地域で住みたいと思いますか			
		住みたい	どちらかといえ ば、住みたい	どちらかといえ ば、住みたくない	住みたくない
普段、生活しているなかで、「大切にされている」と感じますか	「感じる」+「どちらかといえば、感じる」 [74.8%]	28.0%	38.3%	22.6%	8.2%
	「感じない」+「どちらかといえば、感じない」 [21.3%]	18.9%	29.5%	26.3%	22.0%
		将来、自分が育った地域で住みたいと思いますか			
		住みたい	どちらかといえ ば、住みたい	どちらかといえ ば、住みたくない	住みたくない
大人は、「自分のことをわかってくれている」と思いますか	「思う」+「どちらかといえば、思う」 [73.0%]	28.7%	38.7%	21.8%	7.9%
	「思わない」+「どちらかといえば、思わない」 [24.3%]	17.6%	28.7%	28.1%	21.6%
		将来、自分が育った地域で住みたいと思いますか			
		住みたい	どちらかといえ ば、住みたい	どちらかといえ ば、住みたくない	住みたくない
大人の人にはげまされて元気になったことがありますか	ある [57.4%]	29.8%	37.8%	21.3%	8.5%
	ない [38.2%]	20.6%	34.2%	26.4%	16.3%
		将来、自分が育った地域で住みたいと思いますか			
		住みたい	どちらかといえ ば、住みたい	どちらかといえ ば、住みたくない	住みたくない
自分にかかわることを決めるとき、大人は、あなたの意見を聞いてくれますか	「いつも聞いてくれる」+「ときどき聞いてくれる」 [87.4%]	26.6%	37.6%	23.1%	9.9%
	「あまり聞いてくれない」+「まったく聞いてくれない」 [10.0%]	20.2%	25.8%	26.5%	24.4%
		将来、自分が育った地域で住みたいと思いますか			
		住みたい	どちらかといえ ば、住みたい	どちらかといえ ば、住みたくない	住みたくない
近所の人とあいさつをしていますか	「いつもしている」+「ときどきしている」 [84.3%]	26.8%	37.3%	22.8%	10.1%
	「あまりしていない」+「していない」 [13.5%]	18.6%	30.0%	27.1%	20.2%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

## 4 節 三重県子ども条例について

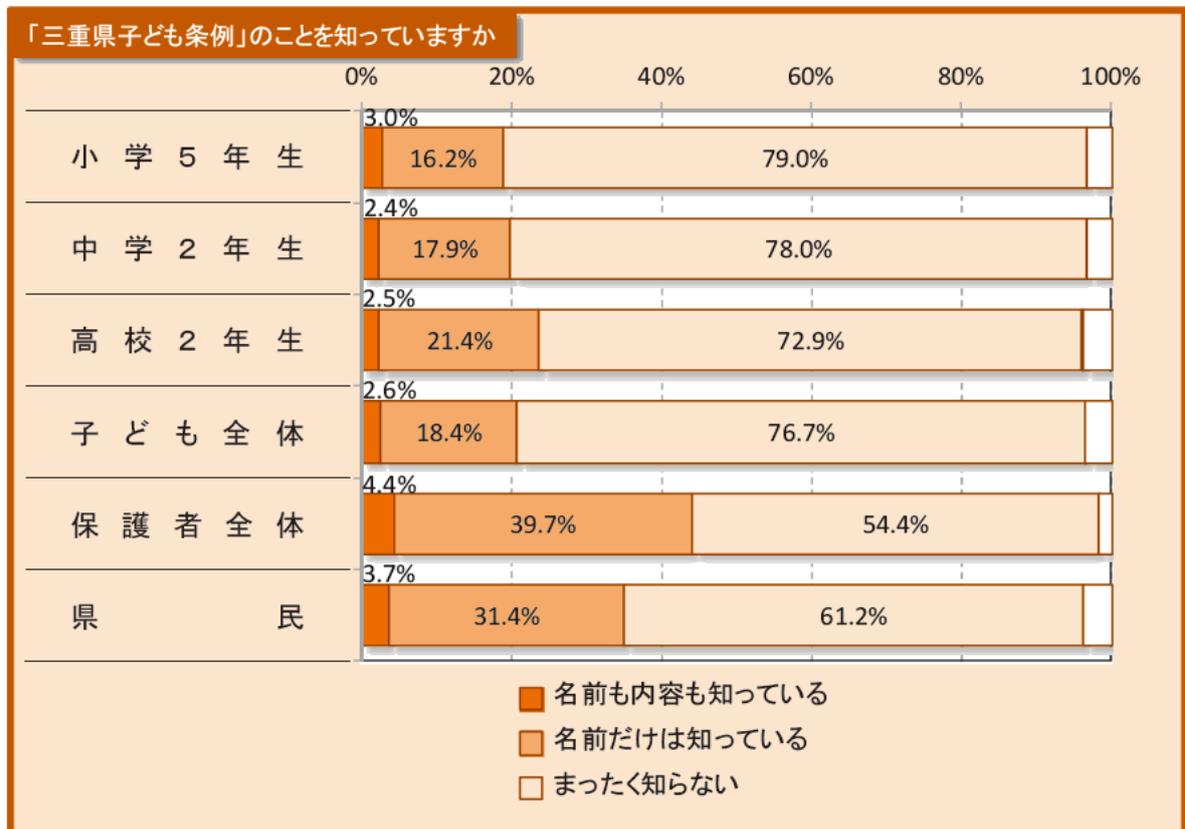
### (1) 三重県子ども条例の認知度／認知手段

#### 子ども条例の県民の認知度は 35%

「子ども条例のことを知っていますか」との問いに、「名前も内容も知っている」と答えた人は、「条例・子ども調査」では、小学生、中学生、高校生とも 2～3%程度であり、保護者や県民で 4%前後となっています。

「名前だけは知っている」を含めた、子ども条例の存在を知っている人は、子どもが約 20%、保護者が約 45%、県民が約 35%という結果でした。

図 4-22 子ども条例の認知度についての子どもと保護者と県民の比較



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査／保護者調査／県民調査」

**大人は広報紙で子ども条例を知った人が多い**

「子ども条例をどのように知りましたか」との問いに、子どもでは、「学校で先生に聞いた」が20%強で最も多く、「テレビ、新聞、雑誌などで見た」も約20%で続きます。

保護者では、「県や市町村の広報紙」と「学校（通知、学級通信など）」が25%前後で多くなっています。県民については、「県や市町村の広報紙」が50%近くに上ります。

図4-23 子ども条例の認知手段

	小学 5年生	中学 2年生	高校 2年生	子ども 全体	
子ども条例をどのように知りましたか	学校で先生に聞いた	13.0%	27.2%	25.1%	21.9%
	テレビ、新聞、雑誌などで見た	21.3%	18.0%	20.1%	19.8%
	家族に聞いた	19.2%	6.7%	5.2%	10.1%
	友だちや知人に聞いた	3.5%	2.8%	2.2%	2.8%
	塾の先生に聞いた	0.7%	0.5%	0.6%	0.6%
	ポスタ、パンフレットで見た	12.3%	12.9%	17.5%	14.4%
	県や市町村の広報紙で見た	6.5%	7.6%	11.0%	8.5%
	その他	7.6%	7.4%	5.2%	6.7%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

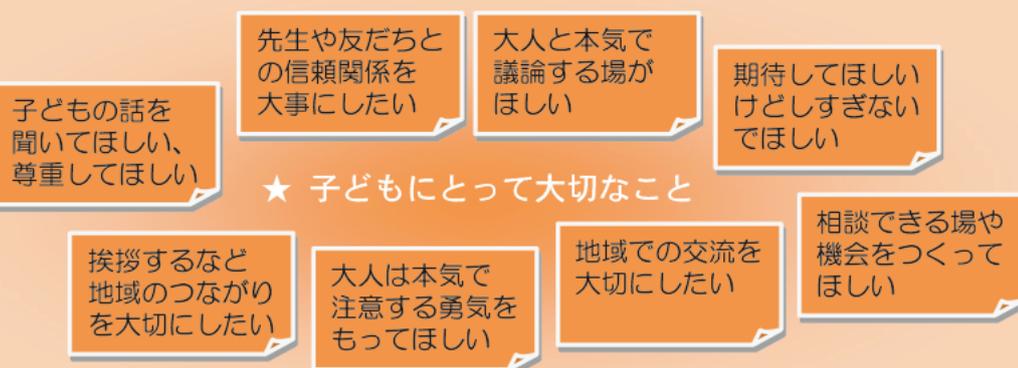
	保護者 全体	県民	
子ども条例をどのように知りましたか	学校（通知、学級通信など）	24.0%	5.3%
	テレビ、新聞、雑誌など	10.9%	13.6%
	家族、友だち、知人の話	2.4%	3.8%
	研修会、講演会	1.3%	2.8%
	ポスタ、パンフレット	11.1%	5.3%
	県や市町村の広報紙	26.9%	47.5%
	その他	1.5%	3.0%

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査／県民調査」

## 【子ども条例に寄せられた子どもたちの期待】

「三重県子ども条例」をつくっていく過程では、アンケート調査や意見募集、こども会議などをおして、たくさん子どもたちがかわりました。

平成 22 年度には、学校の授業や生徒会活動、子ども会活動などのなかで 20 回を超えるこども会議が行われました。こども会議から寄せられた、「子どもにとって大切なこと」と「子ども条例への期待」の一部をご紹介します。



ほとんどのところに「子ども」と書かれていて、子どものことについてよく考えていると思った。

条例ができたら、子どもの支えになると思う。こども会議に参加して、意見を言ったかいがあり、うれしい。

子どもが大人に求めることで、みんなに共通するのは毎日 5 分 10 分でいいから話を聞いてもらったり、一緒にごはんを食べたりする、そんな普通のことだと思う。

「子どもの育ちを見守り、支える」とたくさん書いてあって、条例ができたら、過ごしやすく、安心できる気持ちになるのかな。

誰にも信頼されないのは心細い。「子どもの力を信頼する」という言葉が心に残った。

### ★ 子ども条例への期待

条例ができても、みんなが知っていなかったら意味がないと思うので、広報啓発をしっかりしてほしい。

「この条例が子どもの生きる希望になるように」必要なことを見つけるのは本人だけど、その環境を整えるのは周りの大人だと思う。

条例は、できたものを見て終わり、ではなく、何をすることが大事だと思う。たとえば、大人が子どもにどんな声をかけられるか、といったヒントにこの条例がなればいいと思う。

子ども条例にあることは、当たり前のことだと思った。当たり前のことを当たり前にするために、私にできることをしていこうと思う。

子どものことをしっかり考えてくれていて感じた。条例ができたらみんなできっちり守ってほしい。

